

船橋市版健康スケール及び運動器チェック指標の開発及び事業評価について

≪ 船橋市の新たな高齢者指標「高齢化率 → 元気率」へ ≫

30年度開発、31年度モデル事業、32年度モデル事業

船橋市版健康スケール

千葉大学予防医学センターの辻先生が開発した「要支援・要介護リスク評価尺度」をカスタマイズする

基本10項目
※JAGESの結果等を反映させる

+

追加3項目程度
※ふなばしシルバーリハビリ体操の評価指標

+

追加5項目程度
※船橋市版運動器チェックの評価指標

=

18項目から構成される健康スケール
※専門職も市民のセルフマネジメントにも容易に且つ安全に利用できるもの

船橋市版運動器チェック

開発25項目

市民へのチェックの実施

- ①容易に簡便に地域でPT・OT等の専門職により運動器のチェックや相談を受け、トリアージを行い適切なサービスに繋げる
- ②市医師会(整形外科医などの専門医)がバックアップする

日本整形外科学会推奨のロコモ度テスト

30年度先行モデル事業

+

追加5項目程度
※JAGESの結果等を反映させた運動機能を図る項目を追加

又は

完全船橋市オリジナルチェック

※JAGESの結果等を反映させた運動機能を図る項目から構成

- ①要介護者・要支援者・総合事業対象者を除く65歳以上の75,130人に「健康スケール」を送付 ※運動器チェック利用券内6,000人(30年度)
- ②健康スケールと運動器チェックの結果(ビックデータの継続取得)と併せて国保特定健診結果と国保データベースの活用により地区分析を行う

JAGESの地区分析

24地区コミュニティの市民へフィードバックし、実感してもらい、地区で新たに取り組む課題を共有し健康づくり及び介護予防に取り組んでもらう

ふなばしシルバーリハビリ体操

2025年までに初級運動指導士を1,740人養成するなど、予防医学に基づく本事業を健康づくり及び介護予防事業の根幹事業と位置づけている。26公民館で月1回体操教室と指導士レベルの平準化を目的に定例会を開催する

地区コミュニティの活性化

※予防医学に基づくまちづくり

健康づくり及び介護予防を通じ、地区コミュニティの活性化に寄与し、フォーマルサービスでは行き届かない閉じこもり予防等を地域力で解決していく

点線内が千葉大学との包括的な連携協定を踏まえ、予防医学の考えに基づいた「健康スケール及び運動器チェック」を共同で開発

たのしみながら
健康づくり・介護予防が
できる予防医学の推進

市民ヘルスマーケティングの開催

※予防医学に基づくまちづくり

24地区コミュニティで年2回開催し、ふなばしシルバーリハビリ体操の体験及び地区の課題を共有し健康づくり及び介護予防の推進を図り地域の特徴等を競い合ってもらい、また、居ながらにして、健康とされるようなまちづくり「ゼロ次予防」の推進を図る

目指せ！！
健康寿命日本一

保健所設置市としての公衆衛生行政

地区担当保健師による地区診断を行う